

2024年度国際日本学コンソーシアム【報告要旨】

ダンス授業における教師の発話データの統計解析：
運動を促すフレーズについて

土山玄（お茶の水女子大学/教員）
押尾恵吾（お茶の水女子大学/教員）
水村真由美（お茶の水女子大学/教員）
Le Hieu Hanh（お茶の水女子大学/教員）
土田修平（お茶の水女子大学/教員）

2008年の学習指導要領改訂により中学校の体育でダンスが必修化された。必修化の背景には、生徒間のコミュニケーション促進や自己表現の喜びを通じて、生涯にわたる運動への関心を育むことがある。しかし、教員のダンス経験やダンスの指導経験が不足している現実があり、指導における教員の不安も見受けられる。そこで、本研究の目的は中学校のダンス授業における教員から生徒への指導言語を定量的に分析することで、生徒の運動量を向上させる要因を解明する。

本発表では2024年3月14日にお茶の水女子大学の本館および文教2号館において実施された実験で収集された発話データの分析結果について報告する。なお、この実験はお茶の水女子大学附属高等学校と連携して行われた。本実験では、専門的なダンスの経験がないお茶の水女子大学の学生と大学院生を生徒役とし、実際に附属高校においてダンス授業を担当する体育教師とダンスの指導経験のないお茶の水女子大学大学院に所属する大学院生が本実験の教師役をそれぞれ担当した。実験においては、順序効果を抑制するために生徒役をA群とB群の2つに分け、A群は附属高校の体育教師の授業、本学大学院生の授業の順で実験に参加し、B群は逆順で実験に参加した。

この実験で録音された教師役の発話をテキストデータ化し、テキストマイニングの方法を用いて分析を行った。具体的には、テキストデータに対して形態素解析を行い文章を単語に分割し、単語のn-gramを集計した。n-gramとは隣接共起する単語の組み合わせのことである。このような処理を行ったデータを対象に、指導経験の有無に起因すると考えられる指導言語の相違について計量的な手法を用いて検討を加えた。その結果、ダンスの指導経験のある教師役は経験のない教師役と比べて、「ぎゅっと集まるぎゅっと集まるぎゅっと集まる」のように生徒の行動を促すフレーズを何度も繰り返し発話する傾向が認められた。

【参考文献】

金明哲. (2021). テキストアナリティクスの基礎と実践. 岩波書店.